

9 消防団概要

昭和38年、五市合併による北九州市の発足に伴い、門司消防団、小倉消防団、若松消防団、八幡消防団、戸畑消防団、洞海湾消防団の6団、89分団2,979人となりました。

昭和49年、北九州市の行政区再編成と併せてスタートした「消防団の近代化計画」により、門司消防団、小倉北消防団、小倉南消防団、若松消防団、八幡東消防団、八幡西消防団、戸畑消防団、洞海湾消防団の8団、8本部、69分団、定員2,030人の体制となり現在に至っています。

(1) 消防団の現況

ア 組織等

門司消防団…1本部…11分団…7支部	八幡東消防団…1本部…7分団…2支部
小倉北消防団…1本部…9分団…1支部	八幡西消防団…1本部…12分団…2支部
小倉南消防団…1本部…14分団…13支部	戸畑消防団…1本部…5分団
若松消防団…1本部…7分団…5支部	洞海湾消防団…1本部…4分団

【第80表】消防団の定員・現員

(令和5年4月1日現在)

区分	消防団	分団	計	消防団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
計	8	69	2,030 (1,720)	8 (8)	16 (16)	92 (88)	83 (83)	149 (142)	336 (294)	1,346 (1,089)
門司	1	11	338 (305)	1 (1)	2 (2)	14 (13)	13 (14)	24 (24)	56 (48)	228 (203)
小倉北	1	9	244 (174)	1 (1)	2 (2)	12 (10)	11 (11)	20 (16)	42 (32)	156 (102)
小倉南	1	14	452 (401)	1 (1)	2 (2)	17 (17)	16 (15)	30 (29)	74 (68)	312 (269)
若松	1	7	222 (216)	1 (1)	2 (2)	10 (10)	9 (9)	16 (16)	38 (37)	146 (141)
八幡東	1	7	204 (161)	1 (1)	2 (2)	10 (9)	9 (10)	16 (16)	35 (31)	131 (92)
八幡西	1	12	340 (279)	1 (1)	2 (2)	15 (15)	14 (14)	26 (25)	55 (48)	227 (174)
戸畑	1	5	140 (105)	1 (1)	2 (2)	8 (8)	7 (6)	12 (11)	25 (24)	85 (53)
洞海湾	1	4	90 (79)	1 (1)	2 (2)	6 (6)	4 (4)	5 (5)	11 (6)	61 (55)

(注)1 ()内は、現員

2 定員は、北九州市消防団の組織等に関する規則第4条ただし書きの規定により、臨時に定員及び配置を変更した数

【第81表】消防団員の報酬・費用弁償

(令和5年4月1日現在)

年額報酬 (年/円)									出勤報酬 (出勤1日当り/円)		
消防団	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機関員	機関員補助者	災害	警戒訓練等	7時間45分を超えたら同額加算
	82,500	69,000	50,500	45,500	37,000	37,000	36,500	20,000	10,000	8,000	

【第82表】消防団員の年齢

(令和5年4月1日現在)

区 分	平均年齢	計	18歳～ 20歳	21歳～ 25歳	26歳～ 30歳	31歳～ 35歳	36歳～ 40歳	41歳～ 45歳	46歳～ 50歳	51歳～ 55歳	56歳～ 60歳	61歳以上
計	43.9	1,720	39	99	122	154	202	270	303	233	180	118
門 司	43.5	305	10	10	29	31	39	43	53	36	29	25
小倉北	43.5	174	1	18	15	9	21	28	27	20	24	11
小倉南	45.5	401	2	17	17	33	46	72	77	70	44	23
若 松	42.9	216	6	14	15	28	25	24	45	27	19	13
八幡東	44.3	161	11	12	14	7	11	20	26	22	16	22
八幡西	43.3	279	9	18	22	20	34	51	44	35	28	18
戸 畑	43.9	105	0	7	5	12	15	16	20	16	12	2
洞海湾	43.1	79	0	3	5	14	11	16	11	7	8	4

(注)全体の平均年齢は、各消防団の平均年齢から算出

【第 83 表】消防団員の在職年数

(令和5年4月1日現在)

区 分	平均在職年数	計	5年未満	5年～ 9年	10年～ 14年	15年～ 19年	20年～ 24年	25年～ 29年	30年以上
計	12.5	1,720	381	374	343	249	185	93	95
門 司	13.0	305	64	59	66	48	30	14	24
小倉北	12.7	174	41	34	31	24	24	10	10
小倉南	11.9	401	74	106	90	66	37	16	12
若 松	12.2	216	54	47	42	27	21	9	16
八幡東	12.4	161	43	31	25	17	29	9	7
八幡西	12.4	279	72	64	40	33	31	21	18
戸 畑	13.3	105	16	21	28	19	9	9	3
洞海湾	12.7	79	17	12	21	15	4	5	5

(注)全体の平均在職年数は、各消防団の平均在職年数から算出

イ 施設・機材等

【第 84 表】消防団施設

(令和5年4月1日現在)

項 目	分 団 本 部	分 団 支 部
施 設 数	65個所	30個所
敷地面積（基準）	330㎡	100㎡
建物構造（基準）	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
建物面積（基準）	約100㎡	約35㎡
工 作 物	ホース乾燥台	

【第85表】消防団機材等の配置

(令和5年4月1日現在)

区 分		門 司	小倉北	小倉南	若 松	八幡東	八幡西	戸 畑	洞海湾	計
分 団 本 部		11	9	14	7	7	12	5	4	69
分 団 支 部		7	1	13	5	2	2			30
車 両	指 揮 車	1	1	1	1	1	1	1	1	8
	ポ ン プ 車	11	8	14	7	7	12	5		64
	小型動力ポンプ積載車	7		13	5	2	2			29
	自 走 式 搬 送 車		2							2
そ の 他	消 防 艇								(8)	(8)
	携 帯 無 線 機	12	11	15	8	8	13	6		73
	無 線 受 令 機	19	9	28	13	10	15	6	1	101
	ト ラ ン シ ー バ ー	217	151	298	145	127	202	85	10	1,235
	発 動 式 発 電 機	25	10	29	14	13	28	6		125
	投 光 器	26	16	17	12	23	28	6		128
	メ ガ ホ ン	21	14	37	4	11	18	6	1	112
	強 力 ラ イ ト	71	48	109	53	42	68	28	3	422
	警 戒 ロ ー プ	22	22	33	8	15	19	10		129
	担 架	32	20	46	14	22	34	10		178
	ス コ ッ プ (角)	40	14	33	21	24	28	17		177
	ス コ ッ プ (剣)	112	93	234	33	37	127	42		678
	つ る は し	16	15	25	13	7	25	7		108
	が ん づ め	46	23	75	0	8	61	20		233
	ベ ン チ	15	13	17	8	8	35	6		102
	金 槌	27	16	44	13	14	35	8		157
	掛 矢	29	20	44	13	14	40	11		171
	鎌	70	40	90	21	33	67	22		343
	鋸	33	21	25	7	3	37	10		136
	救 命 胴 衣	194	144	377	138	184	220	85	70	1,412
	可 搬 式 散 水 器	67	24	53	44	27	46			261
	鉈	19	18	28	10	6	31			112
	リ ュ ッ ク サ ッ ク	23	18	48	7	0	5			101
	水 筒	49	33	56	23	5	34			200
	防 塵 メ ガ ネ	215	140	158	160	134	180	28		1,015
	防 塵 マ ス ク	216	203	364	160	138	221	125		1,427
	蛍 光 チ ョ ッ キ	52	36	71	40	30	58	27		314
	合 図 灯	56	31	98	35	41	61	27		349
	40mm ホ ー ス	92	44	104	61	68	41	45		455
	50mm ホ ー ス	252	100	294	129	147	156	52		1,130
	65mm ホ ー ス	504	268	692	289	269	363	131		2,516
	万 能 斧	18	9	24	13	8	17	6		95
	ワ イ ヤ ー ロ ー プ	4	6	12	7	1	13	6		49
	チ ェ ー ン ソ ー	16	11	16	7	8	21	5		84

(注)1 可搬式散水器・なた・リュックサック・水筒は、管内に山林を擁する分団に配置

2 消防艇の()内は、民間艇

(2) 消防団の活動等

【第86表】消防団員の教育・訓練等実施状況

(令和4年度)

区分	項目	対象者	期間等	人数等	内容
消防学校	消防大学校消防団長科	副団長以上	5日間	1	消防団の上級幹部として必要な知識や技術を総合的に習得させ、資質の向上を図る
	県消防学校指揮幹部科 分団指揮課程	分団長 副分団長	年1回	7	分団長又は副分団長として必要な知識・技術の習得
	県消防学校指揮幹部科 現場指揮課程	部長	2日間	6	部長として必要な知識・技術の習得
	県消防学校初級幹部科	部長・班長	2日間	7	指導者として必要な知識・技術の習得
	消防操法研修	未修了の者	2日間	隔年実施	消防ポンプ操法に関する知識の習得
消防局	初任科研修	団員	年1回	167	団員として必要な基礎知識・技術の習得
	幹部科研修	班長以上	年1回	71	幹部として必要な知識・技術の習得
	女性消防団員研修	女性消防団員	年1回	83	防火・防災に関する各種訓練
	応急手当普及員講習	女性消防団員	3日間	10	応急手当普及員の資格取得
	署・団連携消防活動 実戦訓練	指定分団	平日夜間	中止	建物密集地での火災を想定した実戦訓練
	後期警防技術錬成会	指定分団	年1回	7分団	建物火災を想定した実戦訓練
各署・各団	警防技術訓練	全消防団員	随時	全消防団員	消防団員として必要な警防技術の習得
	機関員訓練	機関員及び 機関員補助者	随時	300人程度	機関員として必要な技術の習得
	人権研修	全消防団員	年2回	全消防団員	人権研修等
	安全運転管理者研修	副団長	年1回	7	安全運転管理者講習
	他都市視察研修	分団長以上	年1回	57	他都市の消防団運営状況視察
	年間計画に基づく訓練	全消防団員	随時	全消防団員	各消防団で計画を立て規律訓練、放水訓練等を実施
市消防協会	消防協会研修	全消防団員	年1回	105	消防協会主催による消防団員研修
	他都市視察研修	消防団長	年1回	8	他都市の消防団情勢の視察
その他	定期健康診断	農業・漁業等 自営業者	年1回	358	消防団員の健康管理と疾病による公務災害の未然防止を図る

【第 87 表】消防団に対する表彰

(令和4年度)

表 彰 区 分	内 容	計
叙 勲	瑞 宝 単 光 章	5人
褒 章	藍 綬 褒 章	1人
北九州市長表彰	優良表彰（退職消防団員）	26人
福岡県知事表彰	永年勤続	45人
消防長表彰	優良表彰	11人
消防団長表彰	優良表彰	24人
福岡県消防協会長表彰	優良消防団（竿頭綬）	3分団
	優良消防団員	78人
	永年勤続 40年以上	4人
	永年勤続 35年以上	6人
	永年勤続 30年以上	13人
	永年勤続 25年以上	23人
	永年勤続 20年以上	46人
	永年勤続 15年以上	53人
	永年勤続 10年以上	59人
北九州市消防協会長表彰	優良団員	41人
	優良団員（ポンプ操法出場者）	48人
消防庁長官表彰	功 勞 章	1人
	永年勤続功 勞 章	11人
日本消防協会長表彰	功 績 章	4人
	精 績 章	5人
	勤 続 章	14人
合 計	3分団・13組・518人	

【第 88 表】消防団員の活動実績

(令和4年度)

項 目	合 計	災害活動	年末警戒・祭礼等警戒活動	訓練・研修・予防広報活動
延べ出動人員	23,915人	4,201人	4,468人	15,246人
消防団員1人当たりの出動回数	13.2回	2.3回	2.5回	8.4回

(注) 「消防団員1人当たりの出動回数」は、令和4年4月1日現在の現員（1,808人）を用いて算出

【第 89 表】消防団員の公務災害発生状況

(令和4年度)

区 分	計	門 司	小 倉 北	小 倉 南	若 松	八 幡 東	八 幡 西	戸 畑	洞 海 湾
計	6	1	0	0	1	2	2	0	0
災 害 現 場	1						1		
警 防 訓 練	4				1	2	1		
そ の 他	1	1							

(3) 女性消防団員の取組み

消防団の活性化を図り、地域と密着した親しみのある消防団を目指すため、昭和63年度から5か年計画で女性消防団員128人を採用しました。また、活動業務のさらなる充実を図るため、平成12年度から増員を図り、平成17年度には定員を154人としています。

【第90表】女性消防団員の現員

(令和5年4月1日現在)

所属	計	門司	小倉北	小倉南	若松	八幡東	八幡西	戸畑
人員	144	26	15	30	15	17	24	17

【第91表】女性消防団員の活動実績

(令和4年度)

種別	計	研修	訓練演習	年末警戒 祭礼警戒	予防広報	いきいき安心訪問
回数	251回	168回	47回	10回	26回	0回(訪問世帯数)
延べ活動人員	1,668人	1,002人	436人	42人	188人	0人(訪問団員数)

(4) 関係団体

【第92表】北九州市消防協会

(令和5年4月1日現在)

区 分	内 容
設 立	昭和39年7月1日
目 的	北九州市8団の緊密な連携のもと、消防団活動の円滑な運営を行うため、消防の知識・技術の向上と調査研究、消防諸施設の改善、福利厚生の実施等により、消防力の強化を図るとともに消防思想を普及し、もって市民の災厄を防除し公共の福祉の増進に寄与すること。
会 員	消防団員
名 誉 会 員	本会のため功労顕著な者及び学識経験者
賛 助 会 員	本会の趣旨を賛同し金品等を寄与した者
役 員	会長1人、副会長1人、常任理事8人(正副会長を含む) 共済委員16人(事務局長及び監事を含む)、監事2人、事務局長1人、代議員7人
経 費	北九州市補助金(協会事業費は全額補助金、共済事業費は会員会費及び補助金)